

2016年2月3日

医療用漢方製剤「ツムラ六君子湯^{りっくんしとう}」の基礎実験論文掲載を
英国「ネイチャー」がプレスリリース

2016年2月2日(火)に、Springer-Nature社は、日本の医療用漢方製剤による老化促進マウスの寿命延長の論文が「Molecular Psychiatry」誌に掲載されたことをプレスリリースしました(英国時間午前9時/日本時間午後6時)。

「Molecular Psychiatry」誌のホームページ^{※1}では、同日、論文の全文が公開されております。

内容は、生体内のホルモンの1種であるグレリンがマウスの実験において、血管疾患などの老化関連疾患に対して保護する役割を持つというものです。今回の実験は、漢方製剤の六君子湯^{※2}の処置により内因性(生体内の)グレリンを刺激し、老化促進マウスの寿命を延長させたことを見いだしました。

【論文】

Increased ghrelin signaling prolongs survival in mouse models of human aging through activation of sirtuin1
(グレリンシグナリングの増強はsirtuin1の活性化により加齢モデルマウスの寿命を延長する)

※1:論文は、こちらのURLでご確認ください。

<http://www.nature.com/articles/doi:10.1038/mp.2015.220>

※2:ツムラ六君子湯エキス顆粒(医療用):胃炎、食欲不振、胃痛などに用いられる。
(実験には、ツムラ六君子湯エキス原末を使用しています。)

以上

六君子湯グレリンプロジェクト 代表 乾 明夫

お問合せ先 株式会社ツムラ
コーポレートコミュニケーション室
広報グループ

TEL 03-6361-7100